



# 一手間を 惜しまぬこと＝魅力

校長 村木 吏

立冬が過ぎ秋が深まって参りました。人を引きつける魅力の一つに一手間を惜しまないことがあると思います。私が魅力に感じるこの時期の風景は、青い空、白い雲を背景に黄色く実った柿が点在する里の景色です。この景色は自然が幾重にも手間をかけて作り上げた作品なのでしょう。

秋晴れの中、「千仰祭」が開催されました。今年は千八百名のお客様をお迎えし、生徒たちの発表・展示を通じて学校生活の一端をご覧いただけるいい機会となりました。PTA会員による「がんばり」提供やエコクラフトバッグや生花などの作品展示、JAいわい東による牛の丸焼きなどのご支援が千仰祭を大いに盛り上げていただきました。深く感謝申し上げます。生産技術科で継続研究しておりました「桑プリン」「桑クッキー」などが松栄堂さんのご協力のもとで商品化され、今回の千仰祭で限定販売することができました。ご感想を参考に今後の販売方法などを検討したいと思います。文化祭の

締めが打ち上げ花火というのも新鮮な驚きでした。

音楽部は合唱コンクール東北大会で優良賞、写真部・書道部は来年度の全国高総文祭の出展を決めました。ソフトボール部は新人戦準優勝するなど活躍しております。産業技術科の二年生が電子機器組立で県一・二位を独占、取得に対する努力の成果を示してくれました。

高校新卒者の就職状況が厳しい中、本校は堅実な内定数を手にしていると思います。進学者の目標達成はこれらが正念場を迎えます。就職・進学ともに全員が吉報を得るまで、職員一丸となって手間を惜しまず対応して参ります。生徒諸君の更なる奮起を期待し、会員皆様のご理解・ご協力をお願いします。また、新型インフルエンザにより学級閉鎖などご迷惑をおかけしております。それぞれのご家庭で、皆様のご自愛をお祈りして挨拶とします。

## 全国高P連沖縄大会

事務局長 宇津野 弘徳

「拓くたくましさ・つなぐ優しさ。築こう親子の輪」をメインテーマに掲げ、「結の精神で育む青少年の美ら肝心」をサブテーマとして、八月二十七日(木)・二十八日(金)の二日間、第五十九回全国高等学校PTA連合大会沖縄大会が全国から一万一千人が集い開催されました。本校PTAからは片岡会長、村木校長、宇津野事務局長の三名が参加し、東北・北陸・中国・四国地方に割り当てられた那覇市の県立武道館アリーナ棟の正面に据えられた巨大スクリーンに向かい、宜野湾市の主会場沖縄コンベンションセンターから流れてくる映像で開会式に臨みました。

高間専逸全国高P連会長の挨拶では「今年度は『子ども達の心とその背景』を調査分析し、保護者の支援のあり方の参考になるような提案をします。」と述べておりました。続いて、新垣和歌子実行委員長が「今、私達親にできることは周りの人達と連携を密にし、子どもを導き、寄り添い、見守ることだと思えます。……沖縄では昔から、地域の子どもは地域で共に育む」という助け合い、結いの精神で子育てが行われてきました。」と挨拶しました。

学部教授による「十八歳までに育てたい食の自己管理能力」という講話で「今、子ども達の食の現状に目を向けると、朝食欠食、過食、主菜偏重、塩分の過剰摂取等が見受けられます。……進学や就職で一人暮らしをする可能性の大きい十八歳までに正しい食生活についての知識を身に付けさせることが最優先されるべきです。」と話しておりました。

新型インフルエンザが流行中とのことで、大会参加者の多くが那覇空港到着後からマスクを着用して市内に入りました。開会式の前後には平和記念公園やひめゆり平和記念資料館、旧海軍司令部壕にも足を運び、沖縄の歴史の重さを肌で感じながら帰路につききました。



休憩の後、新城澄枝琉球大学教育